

NL154号 チア・お薦め本の紹介コーナー！への反響！

Q & A ジブリの映画作品について

NL154号の「チア・お薦め本のコーナー（トリアル版）」特集、Aさんからの提案について、たくさんの方の反響をいただきました。その一部をご紹介します。

● Bさんからの手紙

チア・オリンピックにノンクリスチャンの夫と、毎週共に礼拝にあずかっている長男（小2）と長女（年中）の4人で参加させていただき、本当に感謝でございました。子育てにおいて、聖書を読み、神様の知恵と訓戒を祈り求める中で、チア・にっぼんの書籍は大きな道しるべであり、励みです。神様が与えてくださっている子育てのビジョンを仰ぎ、信じ、信頼してまいります。

その中で、ここ数年、折に触れて祈ることがあります。「ジブリ」についてです。先日、友人から、音楽の集まりに誘われました。テーマは「ジブリ」だということでした。行こうと一瞬思いましたが、次の瞬間やめようと思いました。子供たちには、ジブリの作品は見せていません。テレビ自体も、私が納得した番組を録画して一日20分～30分間で、もし見ている間に、少しでも神様が喜ばれない内容が出てくると、子どもたちに説明し、ストップします。テレビを見ない日もあります。「ジブリ」とこれから、どのように子育ての中で対処していけばよいのでしょうか。日本人であれば、「ジブリ」と無関係では済むことはなく、親が見せなくても、いつかどこかで見てしまう可能性が高いと思っています。私のことですが、小学校中学年の時に、ジブリの映画を観ました。何の催しだったかは覚えていませんが、全校生徒が体育館に集まって観たのを覚えています。非常に衝撃的でそのスケールの大きさに引き込まれました。それをき

かけにアニメが大好きになりました。高校に入り環境が変わり興味が無くなりましたが、中学生の時は大好きでした。その頃は、聖書の言葉が心に響かなくなり、イエス様から離れることともなり、今思うと、アニメの悪影響も大きかったかなと思っています。

現在、教会で教会学校の先生をさせていただいております。昨年度までの3年間、中高科で中高生の皆さんと学び、いろいろな話をしましたが、彼らの観て聞いているアニメ、まんが、ゲームや音楽は、考え得る以上に悪く、特に祈りを必要とした期間でした。

前号のニュースレターで、稲葉さんが本を子育てに積極的に取り入れても、厳しい基準を持っていらっしゃることを知りました。私自身、子どもたちには、聖書と聖書に基づいた良書に多くの時間を費やしてほしいと願いながら、とはいえ小学校生活において、読書が奨励されており、息子も読書に熱心でありますので、私が選書するか、チェックしてから読ませることとしております。

小学校の図書室ボランティアにも導かれ、毎回祈りながら整理しております。そして前述のニュースレターの記事を読んだ時、とても心強い気持ちになりました。その後、最初に書きました友人からのジブリ音楽の演奏会の誘いをお断りした時、ニュースレターの記事を思い出し、稲葉さんほどのお考えでいらっしゃるか、また、本の選書に関してもこれからどのようにしていけばよいか、ぜひ伺いたいと思いお手紙を書かせていただくことにいたしました。

➡ Bさんへの返信

Bさん、ご無沙汰しています。手紙をいただいて、

とても嬉しかったです。返事がずいぶん遅れてしまっていて、ごめんなさい。チア・オリンピックに来てくださった時のことは、よく覚えています。ご主人、そして、二人の子どもたちに、くれぐれもよろしくお伝えください。また、いろいろなチアの書籍を大きな道しるべとして読んでくださって、とても励まされたとのこと、とても嬉しく読みました。

特に今回、ニュースレターの記事を読んで、心強い気持ちになってくださったことも、嬉しく思いました。ご質問のジブリに関してですが、とても良いポイントをチェックされていると思います。

基本的にメディアに関しての共通点は、映画、テレビ、音楽、本など、すべてそうだと思いますが、作者は何らかのメッセージを伝えたいという、テーマ設定をしています。ですから、そのテーマが聖書的なものかどうかを吟味し、見分けていく必要があるのではと思っています。それが、反聖書的なもの、また無神論的なものであったり、逆にまさに聖書的なものであったり、直接神様が出てこなくても、家族、あるいは聖書的な価値観を励ますものであったりと、大きく分けると、2つに分けられていきます。「聖書・家族的作品」と「反聖書・家族的作品」ですね。最近、松竹の幹部の方と話した時も同じでした。そのあたりを親として吟味しながら、良いものを子どもたちに与えていく。そのことが、子どもたち自身にも吟味する力を養わせていく。そうした努力が必要なのではないかと考えています。テレビ等のメディアの制作体験からも、私はそのように考えています。NHKの番組企画会議でも、この番組の企画のねらいは何か必ず聞かれます。

具体的に、ジブリに関してですが、私自身、全ての作品を観た訳ではないので、作品や予告編を観たり、インタビュー情報等をベースにコメントしますね。

まず、我が家では、二つの作品だけ観せています。上記の観点に沿って吟味した中で、一つは三角印

で、いろいろと注意や吟味を行いながらですが、「となりのトトロ」、もう一つは、宮崎監督の引退前の最後の作品となった「風立ちぬ」、その二つです。

宮崎監督は、個人的には、とても尊敬しています。クリスチャンに導かれるよう、祝福を祈っています。映画制作者としては、アカデミー賞特別賞に輝くほど卓越した、制作能力に溢れ、平和や人権への志にも満ちた尊敬すべき方であり、ジブリの後継者の皆さんも含めて、さらに用いられて欲しい方だと思います。私が少年時代(1978年)、NHKで「未来少年コナン」という宮崎監督の初監督作品がありましたが、私は部活が早く終わった時には、胸をときめかせて観ていました。

しかし、アメリカのマーケットに「もののけ姫」を売り込もうと監督が来られた時に、アメリカの記者たちがある質問をして、宮崎監督の答えにあっけにとられるという、非常に残念な会見がありました。ある記者が聞きました。「『もののけ姫』の中で、腕がボーンと切られたり、体の一部が残酷に切り取られたりして、非常に残酷だと思いました。この作品は子ども向けの作品だということですが、なぜ子どもたちに、このような残酷なシーンを見せるのか、その悪影響を考えないのですか？」その時の宮崎監督の答えに、多くの記者が引いてしまったそうです。宮崎監督は、笑みを持って「それは心配ありません。子どもたちは、このようなシーンをととても喜ぶのです。」と答えたというのです。その記者会見の会場は、そこで静まり返ってしまったという話を、その質問をした記者から聞かされました。僕もその答えは残念だったと思うし、通訳者が誤訳したのかなと思うぐらいです。同時に、今の日本のメディア状況も反映しているのかもしれないなと思いました。視聴者に、どのようなものが受けるのか、ということが制作者のひとつの基準となり、視聴者に良いインパクト、あるいは、悪いインパクトを与えるものなのか、ということに関する注意を怠った、象徴的な答えになってしまったなあと思いました。

その他、聖書と照らし合わせて、文字通り良くない作品は、ジブリの中にもいくつかあると思います。「平成狸合戦ぽんぽこ」は予告編を観ただけで嫌になりました。魔女系も残念です。いろいろな偶像、悪霊的なものがトピックになっているケースですね。子どもたちにどのような作品を見せるか、アメリカの基準は日本より厳しいと思います。ジブリの皆さんに、そのあたりお伝えできれば、ジブリの素晴らしい才能や、ものすごい努力が、国際的にも、あるいは日本でも、もっとポジティブに用いられることとなると思うので、神様の祝福を祈っています。

非常に判断が難しい作品もあります。上記の通り、僕は「となりのトトロ」に関しては子どもたちに見せると言いましたが、もちろん、全ての内容がいいわけではありません。時には、お地蔵様を拝むシーンなどが入っていたりします。また、トトロ自体も、ファンタジーというか、それを霊的なものとして捉えるならば、そう捉えることができます。その意味では、トトロは我が家のコードのすれすれです。60-70点ぐらい。子どもたちに見せる時には、もちろん「お地蔵様を拝むのは偶像礼拝だし、これは実在しないファンタジーというものだよ。」ということは注意しながら、見せています。

ただし、この作品のテーマを見た場合に、そのような地蔵崇拝をさせようとか、妖精的なものを信じるように促そうというよりは、お母さんが病気で入院している中、どうやってお母さんを喜ばせようかとプレゼントを考えたり、お父さんがお母さんを愛し、お母さんの闘病生活を助けながら、家族みんなで団結し、親戚の皆さんや地域の皆さんに助けられながら、がんばっていこうという「家族」の大切さや、地域の中で協力し合っていくその姿を見ることができるのです。そういうわけで、他のマイナス点も子ども達自身に吟味させながら見せるという、ちょっと三角印の作品です。



「風立ちぬ」に関しては、ゼロ戦の製作者、実在した人物をベースにした話です。これに関しても、いろいろな夢のシーンが出てきたり、戦争に用いられる武器の製作だというような非難も、できないことはないと思います。ただ、基本的には、反戦という心情を持っている宮崎監督が制作したテーマが、飛行機作り、ゼロ戦作りだった、ということで、特に今後戦争していこうとか、好戦的なものではないということと言えます。その中で、テーマとしては、自分に与えられた興味、その夢をどうやって実現していくか、その為の努力と準備、またいろいろな友達、上司との関係の中で、その夢を実現していくために魂を注いで取り組んでいく姿勢、そうしたひた向きな、真面目な姿。また、出会っていく菜穂子さんを、関東大震災の時に助けながらも、恩を着せたり威張ったりしないで、立ち去っていく姿。その後再会した時には、菜穂子さんは当時不治の病であった結核になっていますが、それでもその人との婚約を決断していく姿。何か、三浦光世さんを思わせるような、相手の人格を尊重し、元気だから結婚するとかではなくて、無条件の純粋な愛というものを示し、その愛を受けて、菜穂子さんもまた闘病に励んでいく、その姿が描かれていきます。そして、二人は上司の下で結婚式を行います。それでも上司に、「婚約中とはいえ、結婚していない二人を一緒にの部屋に寝かせるわけにはいかない」と、

そのような純潔、清らかな言葉を、びしっと台本の中で言わせています。そして二人は、「そうだ」と言って、その上司夫妻のもと、結婚式を挙げて、その夜、初めて二人でその上司の家の一部屋で休むという、そのような、神様が喜ぶ男女の関係、清らかさというものも、ストーリーの中で育んでいきます。最後には、菜穂子さんは命を失いますが、主人公の心の中に生きていくという、夫婦愛の素晴らしさも描かれます。そうした、人間の命とは何か、あるいは、そういう中で助け合っていく、努力を重ねていく、そうした生き方をテーマにした作品として、僕はこの「風立ちぬ」に関しては、宮崎監督の優れた作品として、子どもたちにも見せています。子どもたちは、エミリも真祈史も大好きで、特にジョセフは日本でもアメリカでも、レンタルショップで、10回以上借りてきて観ており、自分もまた紙飛行機作りを一生懸命やっています。オリジナルの「C1-15」という、風の抵抗を受けないように翼の脇が折れた飛行機を作って、公園で飛ばしています。このように、創造性を刺激され育んでいくという、良い効果もありました。

トトロでは、病気のお母さんのことを本当に心配して、妹がいなくなったんじゃないかと、お姉さんが心配したり、「お母さん、死んじゃうんじゃないか」というような切なさがあり、風立ちぬでは、愛する奥さんを失っていくけれど、その中でも、夢に向けた情熱、努力、そして誠実さ、というものを積み重ねていく、そうした良いテーマが含まれているのではないかなと思います。

聖書的でないものもあるのですが、そのあたり、全部だめという方もおられるだろうし、「トトロ」もダメ、という方もいるだろうし、そこは、各自お父さんお母さんが祈って決められたらいいのではないかなと思います。でも、「風立ちぬ」みたいな素晴らしい作品に関しては、逆に何回も見せていいと思います。いくつかの点で、マイナス点があるので、チア推薦はできません。ただ、宮崎監督、

最後の作品として、本当に良いテーマ設定のもとに描いたのではないかな、とは思いますが。

ポイントとしては、「テーマは何か」ということです。子どもが喜ぶから、腕を切り落とされても、全然平気ということではなくて、やはり残酷なシーンや、子どもにふさわしくない、例えば性的なもの、あるいは悪い言葉、「ニューエイジ」的なものなどからは、確実に影響を受けていくので、親もそこはチェックしていく、そして吟味して祈っていく必要があると思います。そのあたり、Bさんは意識を持って取り組んでいるので、すごくいいのではないかなと思います。

マガジンのバックナンバー 13号～22号を読んでいたいただいたら分かるかと思うのですが、テッド・ベア博士がそのあたり、メディアとどう接していくかということを集めています（メッセージCDもあります）ので、チェックしていただければ、こうしたテーマについて、さらに深く分かります。あるいは、性的な分野に関しては、ジョシュア・ハリスの「誘惑に負けないために」等、書籍も出ています。

とはいえ、人間の力では十分にできないので、神様本当にごめんなさい、と言いながら、でも聖霊の力をもらって、また神様からの知恵、知識、判断する心を与えてください、という、ソロモン王の祈り（1列3：9-12）を胸に、更にダニエルの思慮（ダニエル2：14）を得て歩めるようにと、祈っているところです。

共に、神様の力と知恵をもらって、成長していければいいなと思っています。本当にメディアについては、いい意味でも、悪い意味でも、強い影響がありますので、そこにセンシティブに対応していくというのは、非常に賢いお父さんお母さんのあり方ではないかなと思っています。

本当に良い手紙、ありがとうございました。祝福をお祈りしています。また、更に追加の質問があれば、聞いてください。God Bless You!